

2022 J3 順位表 第11節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

注: *印は消化試合が数字分少ない

1	鹿児島	26p	+13	20	7
2	いわき	24p	+16	23	7
3	松本	22p	+8	17	9 H●
4	藤枝	20p	+9	21	12 A●
5	福島	19p	+5	14	9
6	富山	19p	+3	19	16 AO
7	宮崎	18p	+7	15	8
8	今治	17p	0	9	9
9	長野	16p	0	12	12 AΔ
10	岐阜	15p	+4	18	14 --- ---
11	愛媛	15p	-2	11	13 HO
12	沼津	13p	-2	12	14 A●
13	讃岐	11p	-5	10	15 A●
1*14	相模原	10p	-6	8	14 HO
15	北九州	9p	-6	9	15
1*16	八戸	7p	-9	6	15 HΔ
17	鳥取	5p	-15	8	23 HO
18	YS横浜	5p	-20	4	24 AΔ

次回HomeGame

第15節 vs.FC今治

7/3 (日) 19:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

今日もここから
串かつ一杯

煮込み **珍道中**
串かつ

14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)

※売り切れ次第、終了です

<定休日:日曜・祝日>

TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約 10分

★
アミカ

ドミ
ン

JR
岐阜駅

today's guest : **鹿児島ユナイテッド**

2021 J3 11勝 7分10敗 勝ち点40: 7位

直近の対決と結果

2021/09/25
J3 - 20節 @白波スタ
鹿児島 1-0 岐阜

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	鹿児島ユナイテッド
2022/06/05 J3 - 11節 @長良川 岐阜 0-0 八戸	2022/06/05 J3 - 11節 @白波スタ 鹿児島 1-0 沼津
2022/06/01 天皇杯 2回戦 @パナスタ G大阪 4(延長)-2 岐阜	2022/06/01 天皇杯 2回戦 @トラスタ 長崎 1-0 鹿児島
2022/05/29 J3 - 10節 @長野U 長野 2-2 岐阜	2022/05/29 J3 - 10節 @ピカスタ 讃岐 0-4 鹿児島

●天皇杯2回戦を終えて中3日で迎える3連戦の3試合目、6/5 (日) 第11節・ホーム八戸戦。勝たなければならない試合だったが、J1・G大阪相手に延長戦まで120分間戦った影響が出てしまったのか、岐阜の選手たちの動きや連携に精彩がない。逆に八戸に押し込まれる場面も多く見られた。後半になると選手交代とシステム変更で岐阜の攻撃が活性化して決定機も生まれるが、ゴールを奪うことはできずスコアレスドロー。下位の八戸を相手に、勝点2を落としたりに等しい残念な結果となってしまった。

この試合の結果、FC岐阜は何とか勝点1を積み上げたが、順位は10位のまま変わらず。しかも首位・鹿児島と2位・いわきが揃って勝利したため、勝点差は鹿児島とで11、いわきとは9と、逆に広がってしまった。もちろん、まだ23試合も残っているし、諦める段階では決してないのは間違いないが、一方で余裕のある状況でもない。上位陣が勝点3を取りこぼすことは少なく、そのわずかな機会に勝点差を詰めていかなければならない。今節からの対戦相手は、順に鹿児島・福島・宮崎・今治・いわきと、上位チームとの厳しい対戦が続く。しかし、ここを勝ち続けなければ上位進出そして『J3優勝・J2復帰』の目標は達成できないし、逆説的には上位進出の大きなチャンスとも言える。今節からは連戦の疲労から心身共に回復させて、新たに気持ちを引き締めて、目標達成に向けて再び挑戦しなければならない。

さて今節の対戦相手は先述したとおり、首位の鹿児島ユナイテッドFCだ。昨季は7位に終わり、岐阜と同様に『J3優勝・J2復帰』の目標に届かなかった。今季は、昨季のなでしこ1部で伊賀FCを優勝に導いた大嶽直人監督を招へいして、岐阜と同様に『3度目の正直』で臨んでいるチームだ。Jでは初めて指揮を採る大嶽監督だが、素早いカウンターと強度の高いサッカーを展開して、今季現時点で敗戦した相手は長野だけ、引き分けもいわきと宮崎の2チームのみ。6/1 (水) の天皇杯2回戦ではJ2・長崎相手に0-1で敗れたが、中3日での沼津戦では1-0で勝利してリーグ戦4連勝を達成中と、J3で今一番勢いに乗っているチームだ。逆に言えば、この首位チームを倒さなくては岐阜に明るい未来は開けてこないし、勝てば岐阜に大きな自信と勢いが付くことだろう。この“勝点6マッチ”、いくら宝暦治水の偉業を成し遂げてくれた地域のチームとはいえ、絶対に倒さなければならない非常に重要な試合だ。それは岐阜の誰もが分かっていることだろう。

鹿児島との通算対戦成績は、岐阜の2勝1分3敗・5得点3失点と岐阜が負け越している。ホームでの対戦成績は1勝1分1敗・1得点1失点。昨季6/21 (日) 第13節のホーム戦では、7割近くボールを支配され、かつ倍近いシュートを撃たれながらも我慢して守り続けた岐阜が、試合終盤にカウンターで貴重な1点を奪い、守り切って1-0での勝利。逆に9/25 (土) 第20節アウェイ戦では、試合開始早々の隙を突かれて失点。追いつくべく相手の倍のシュート12本を放つがゴールは遠く、0-1での敗戦。鹿児島との対戦は過去6試合で4試合が“ウノゼロ”と、緊張した試合になる傾向がある。最後まで集中力を切らさないチームに、勝利の女神は微笑むだろう。

鹿児島で最も警戒すべき選手には、現在7ゴールの#9有田光希を挙げる。直近のリーグ5試合で4得点、どこからでもゴールを狙ってくるCFに隙を見せてはならない。また、現在5ゴールで2年連続チーム得点王の#36米澤令衣が左サイドに、運動量豊富な#11五領淳樹が右サイド、そしてトップ下には司令塔の#10ロメロ・フランクが控える。この迫力ある鹿児島の攻撃陣から、岐阜の守備陣は90分間ゴールを死守しなくてはならない。厳しいミッションになるが、必ずや達成してくれるはずだ。

徐々に気温も上がり、また梅雨に入っていく季節。その中でデーゲームは選手たちの消耗も激しくなるだろう。最後まで走り続ける選手たちの背中を押せる応援を、僕らFC岐阜サポーターは繰り広げよう。まだ声援を送ることは許されていないが、大きな拍手や鳴り物でスタジアムに岐阜のリズムを作り出し、選手入場時にはゲーフラを掲げ、旗やタオマフなどを振ってスタジアムを緑色に染め、勝利を掴むために選手たちと共に最後まで戦い続けよう。そして、試合終了の笛を歓喜で迎えよう。(ささたく)

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

【第11節】岐阜 0-0 八戸

●勝たなければいけなかったゲームではあったが、水曜日に120分やってるチームと、そうでないチームとのコンディションの差が出てしまったなど。

立ち上がりからその差は明白で、八戸の積極的なプレスに受け身に回ることが多く、スッカスカのバイタルを使われまくってヒヤリとさせられるシーンもチラホラ。中盤で刈れなかったからなあ。本田拓也の穴は大きいことを痛感させられた。怪我人続出でベストなメンバーが組めない現状で、柏木と庄司のボランチコンビに関して、いろんな意見があるけれども今いるメンバーでの最善策ということなのだろう。ともかく怪我人が戻るまで、辛抱強くやっていくしかない。あと八戸は葛野監督が病気休養で「監督に捧げる勝利を」というモチベーションの高さがあったのかも。若い選手が多かったが、最後まで脚が落ちることがなかったのは見事だったと思う。

これで過密日程も一区切り。しっかり休息して切り替えて鹿兒島戦に臨みたい。(岐阜の誇り)

●天皇杯2回戦、ガンバと延長戦まで戦って力尽きた岐阜。そこから中3日で気持ちを切り替えてのリーグ戦。もちろん非常に厳しいチーム事情なのは分かるけれど、選手層は厚いはずなんだし、ガンバ戦で使わなかった選手たちが活躍してくれるはず。福島が大敗し、松本も引き分けたから、今日こそは上位チームとの勝点差を縮めるチャンス。ウチはナイターなんだし、体力の消耗も抑えられるはず……と、僕を含めて岐阜サポの誰もが考えてたと思うんですよえ……(溜息)。

……で、スタメン見た時に#10 庄司 & #42 柏木のダブルボランチに嫌な予感がしたのも、僕だけでは無いはずですよえ……(溜息)。残念ながら3連敗した時は、この2人のボランチなんですよね。少なくとも今の岐阜の戦い方だと、中央でボールを奪ったりスペースを埋める運動量のあるタイプが……

#14 ホンタクさんとか#23 遼太郎とか。だけど、たぶん#14 ホンタクさんは怪我で、#23 遼太郎は怪我人続きのCBに補填しなくちゃいけなくて……っていう事情なんだろう。そして、試合開始すぐから感じてしまう、選手たちの動きの悪さ…なんだこれ？ガンバ戦に出てなかった選手まで動きが鈍く見える。横山監督になってから、縦に速く攻撃する方向性が見えてたと思うんだけど、動かずにボールを待つ・止めてから動き出すプレーが再び多くなっているように見えた。相手は下位だし、丁寧にボール回しをすれば、そのうちゴールのチャンスが来るはずだから焦らなくて良いっていう考え？でもそれ、YS 横浜や沼津や讃岐にやって、痛い目に遭ったのをもう忘れたの？うーん、いつの間にかウチにはそういう“悪い癖”が付いたんだろうか。『崩してからシュートを撃つ』だけじゃなくて、『シュートを撃って崩してから詰める』のだって立派な戦術なのに。それに連戦で相手よりも走れないのならば、サイドを突破したりパスの連係で崩すのが難しいのだから、シンプルに縦にボールを出せば良いのにと僕は思う。一方の八戸はシンプルに思い切りよく縦に仕掛けてきてゴールを狙ってくる。何度か肝を冷やす場面も見られた。

後半すぐに選手交代してシステム変更した岐阜は、ようやく勢を取り戻して八戸のゴールに迫るが、それでもシュートまでが遠い。結局、岐阜の攻撃で惜しかったのって、終盤の#8 窪田くんの単騎突撃してバー直撃したのと、#7 透馬のダイレクトシュートが相手GKに弾かれた時、ぐらいいじゃないかな？終わってみれば、ボールは支配しながらシュート数は相手よりも少ない。今季で一番の“塩試合”だったんじゃないだろうか。どうもチームに怪我人が多すぎたのが不安材料だ。特にDF陣の復帰 or 補充が急務なんじゃないだろうか。そして、選手たちの意識改革もさらに必要だ。自分たちが挑戦者であることを、どんな試合でも最後まで必死に走って戦わないと勝てないことを、改めて全員が肝に銘じる必要があると、僕は思う。(ささたく)

●『息詰まる展開』という表現があるけど、この試合、特に前半は「息も血管もどん詰まりになりそう、とてもつまらない試合」だったよ。それでも、よく、無失点で抑えてくれました。八戸サン、ありがとう。いや、ジョークまでもがキレも味もなくてつまらなさ過ぎるね、ゴメンナサイ。

しかし、あの南長野とパナスタは何だったのか？まあ、天皇杯の大阪は、油断とは言わないが様子見から入って失点しただけ。J3は、そんなにヌルくはないってことだ。結局、クボタンとトーマが出てこなきゃ何ともならない。追いかける展開になるとキツイから、最初っから出せばいいんだよ。それと、前の2試合との違いは、やっぱり、ボランチの組み合わせ……かな？スタメンに入るべきCB 3枚が不在というスクランブルだからしかたないけど。船津も遼太郎もソコじゃないよね。とっとと覚醒しちゃってくれよ！>アラタ。真ん中は任せる。ウチより下位の相手にこの内容。誰が見ても前半は八戸ペース。正直の申し上げると「順位に相応しい試合」でした。ただ、勝ち点が取れたのはよかったんじゃないかな？

あえてエクスキューズを言うなら、一週間空いた八戸と中3日のウチには、コンディションの差は出るよね。しかも、延長戦までやったんだからね。長野戦からターンオーバーしてるといっても、まるっと休養した選手は少ないからね。今度は一週間空くから、万全の体制で首位・鹿兒島にひと泡吹かせてほしい。「今がどん底だ。」という確信はないのがツライけど、開き直って言っちゃえば、こういうところから昇り詰めちゃうのが『下剋上』。見せてもらおうか、岐阜の意地、プライドというヤツを。(ぐん、)

●発表されたスタメンを視た時に軽く「呆れた」ことを白状します。庄司と柏木のダブルボランチ。選手の能力は折り紙付き。でもその2人が一緒になるとどうなるか、三浦監督時代に散々見ているでしょうに……。でも、岐阜サポの友人が言うには、フレイレと藤谷と岡村が不在となると3枚のCBにはヘニキが入る。となると、ホンタクも不在の状況ではボランチはこの組み合わせに「消去法で」なってしまう、と。なるほど。しかし、この組み合わせがロマンに拠るものでもリアルに拠るものでも「機能しない」という事実は変わらない。村上春樹の表現を借りれば、ドーナツの穴が「存在」だとしても「空白」だとしても味に違いが出るわけではない。

そして、試合はやっぱり想像通りの展開になった。前半、岐阜ゴールの正面ペナルティ・アーク付近にポイントを作られたシーンが何度あったことか……。首位の鹿兒島が相手だったら前半で0-3だったかもしれない。

横山監督の『修正力』はちゃんと機能して、後半アタマから相変わらず安定的に不安定(苦笑)なヘニキを下げて4バックに。これで中央の破綻はだいぶ収まったけれど、八戸がガツガツ寄せる守備を徹底して、岐阜はうまくボールをまわせない。八戸の選手とのデュエルで負けてるようじゃ、筋肉質(褒め言葉)で知られるいわきの選手とやったらミドル級とライト級のバウトになってしまう。最後は右の窪ちゃん+左のトーマの両翼行った行つたで打開を図り、実際に窪ちゃんのクロスバー直撃のシュートもあったけれど、結局試合はスコアレスで終了。長野戦は「掴み取った勝ち点1」だったけれど、八戸戦は「掴ませてくれた勝ち点1」だった。

最初から4バックだったら。最初から後半勝負と割り切ってスタメンFWをタナジュンか畑にして、勝負どころで窪ちゃん+チャーリー+トーマの「両翼&中央、3本の槍で行った行つた」にしていたら。横山監督の修正力は評価するし、この試合でもそれは顕れたと思うけれど、その修正力で補いきれないくらい、前半が悪過ぎた。

もちろん、水曜にガンバ戦を戦って延長まで行ったダメージが残っていたのは理解できる(八戸は天皇杯は1回戦敗退なので水曜の試合はなかった)けど、カビくさい営業訓示じゃないけど「結果だけが、チームを評価する」。次の鹿兒島戦はしっかり休養して、ガチンコ出来るコンディションにして臨んでほしい。(吉田铸造)